

極限に挑む気鋭の研究者たちが語る

ブレイク スルーの 瞬間

これまで、エレクトロニクス分野をはじめとする科学技術分野において、我が国の研究者が大きな寄与をなしてきたことで、国際的な敬意を獲得するとともに、経済的な繁栄を築いてきました。今後も、資源が少ない我が国の繁栄には、独自の知的な強さを発揮し続けることが必須であると同時に、資源や環境保全など地球規模の改題に対しては、協調的有効な貢献をなすことが求められています。そのためには、創造性と意欲を備えた研究者・技術者の育成と活躍とが不可欠であることは言うまでもありません。本フォーラムでは、科学技術分野でブレイクスルーとなる成果をあげ、丸文学術賞 / 丸文研究奨励賞を受賞された気鋭の研究者が、そのブレイクスルーの秘話や裏話などを交えながら体験を語ることで、これからブレイクスルーに挑戦しようという若手研究者の心に火をつけ、科学立国・日本を築くことに少しでも寄与することを目的としています。

【プログラム】

■講演会 13:00~16:00

会場：大阪大学吹田キャンパス内 U2 棟 312 講義室
<http://www.eng.osaka-u.ac.jp/ja/access/index.html>

挨拶：応用物理学会会長 丸文研究交流財団審査委員 石原宏



「細胞膜のテラヘルツ帯共鳴振動仮説を追いかけて」
—ノーベル賞か、イグノーベル賞か?!—
名古屋大学エトピア科学研究所 川瀬晃道



「光から物質へ、物質から光へ：光科学と量子物性物理学の波に揺られて」
大阪大学大学院理学研究科 小川哲生



「光を自由自在に制御する：フォトニック結晶」
京都大学大学院工学研究科 野田進



「有機トランジスタの魅力とベル研究所の留学体験」
東京大学大学院工学研究科 染谷隆夫



「誤解と非常識が生んだプロセッサアーキテクチャ」
—カリフォルニアの青い空と超常識な世界に憧れて—
九州大学システムLSI研究センター 石原亨



「瓢箪から駒の電子材料研究」
—あたらしい物質系の研究にはあたらしい研究手法を—
東北大学原子分子材料高等研究機構 川崎雅司

■パネルディスカッション 16:20~17:50

「ブレイクスルーを生み出す方法はあるのか？」

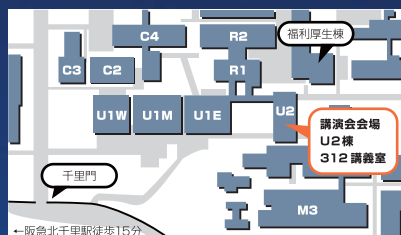
パネリスト：川瀬晃道 / 小川哲生 / 野田進 / 染谷隆夫 / 石原亨 / 川崎雅司

司会：森勇介

参加登録・詳細 ▶ <http://www.marubun-zaidan.jp/>

2008.11.28 (金) 13:00 開演

※参加費無料



【アクセス】

- 阪急電車千里線北千里駅下車、東へ徒歩 15 分
- 地下鉄御堂筋線千里中央駅発、阪急バス「阪大本部前行」または「茨木美穂が丘」乗車、阪大本部前下車
- 阪急電車京都線茨木市駅発、近鉄バス「阪大本部前行」乗車、阪大本部前下車
- JR 東海道線茨木駅発、近鉄バス「阪大本部前行」乗車、阪大本部前下車
- 大阪モノレール阪大病院前駅下車、北西へ徒歩約 15 分